

令和2年度岩手県地域づくり事例発表会

令和3年1月18日

ご縁で紡ぐ地域の過去・現在・未来
～文化遺産活用によるローカルネットワーク形成

合同会社 いと・をかし
代表社員 岩隈大樹

Serendipity 繋がる 紡ぐ

偶然のような 必然の 幸せの連鎖

-ERYCA 「Serendipity」より

物語法

記憶術のひとつ。一見関連のない事柄間に、意味づけを行いストーリー仕立てにすることで長期記憶を可能にする手法。

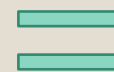


意味づけを行う主体としての自己理解を促す
～私は何者で、どこからきて、どこへ行くのか

「わたし」の物語



「地域」の物語



「いま、ここ」にいるということ

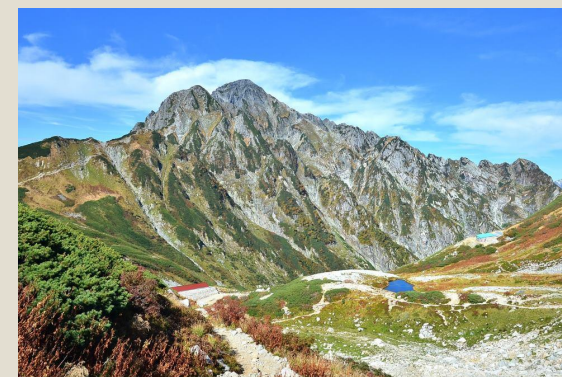
「わたし」の物語

◆誕生から金ヶ崎と出会うまで

- ・1987年7月6日、埼玉県加須市にサラリーマン家庭の長男として誕生。
- ・1999年...小学6年生。夏休みの自由研究で古墳巡りを行い、史跡探訪にハマる。
- ・2000年...中学1年生。京都奈良に2週間、はじめての一人旅に出る。
- ・2006年...立教大学社会学部入学。半ば強引な勧誘により登山サークルに所属。

北アルプス、屋久島など全国の山に登る。

- ・2010年...登山と一人旅のし過ぎで単位を落とし大学を留年。
- ・2011年...大学卒業。環境・まちづくり系シンクタンクに入社。ダム建設予定地の地域資源調査などを行う。
- ・2013年...思うところありシンクタンク退社。遺跡の発掘作業員として働きながら、通信制大学で学芸員資格を取得。
- ・2014年2月...博物館系求人募集の掲示板にて金ヶ崎町地域おこし協力隊の求人を発見。「文化遺産活用」に興味を持ち応募、採用。



「わたし」の物語

◆地域おこし協力隊時代

- ・2014年5月1日...金ヶ崎町地域おこし協力隊文化遺産活用隊員に着任。町内全域の地域資源調査に取り掛かる。
- ・2014年10月...町広報記事「それいけ地域おこし協力隊隠れたお宝発見伝」連載開始。
- ・2015年4月...奥州エフエム「胆江ふるさとノート」木曜ゲスト出演(～2017年3月)。
- ・2015年8月...地域交流拠点「旧大松沢酒店」オープン。
- ・2015年10月...子供向け事業「金ヶ崎歴史探検隊」スタート(第一回は大林城)。
- ・2016年2月...三ヶ尻小学校にて千貫石太郎の郷土学習授業開始。
- ・2016年3月...長志田地区郷土史編纂事業サポート開始。
- ・2016年10月...脚本を担当した第8回町民劇場「風の旅人」上演。
- ・2016年12月頃...紹介により永徳寺青木家を見学。
- ・2017年3月...『千貫石太郎の金ヶ崎ワクワク探検ガイド』発刊。
- ・2017年3月...金ヶ崎町地域おこし協力隊退任。



「わたし」の物語

◆協力隊退任後

- ・2017年4月...立教大学大学院21世紀社会デザイン研究科入学。働きながら研究に取り組む同志たちと知り合う。
- ・2017年5月...10年以上音信不通だった幼馴染と再会。
- ・2017年7月...三ヶ尻地区センター歴史講座ではじめて講師を務める。
- ・2018年9月...大学院の研究で福岡宗像大島へ。安倍宗任の墓に参拝する。
- ・2018年9月...池袋の公園で仮眠中、財布とPCの入った鞆を盗まれる。
- ・2018年10月...金ヶ崎での起業を決意。活動拠点として永徳寺青木家のことが頭に浮かび、即日連絡。翌月より購入に向け交渉開始。
- ・2019年3月...立教大学大学院21世紀社会デザイン研究科修了。
- ・2019年9月26日...永徳寺青木家購入契約。翌月再移住。
- ・2020年2月...合同会社「いと・をかし」設立。
- ・2020年8月...古民家交流施設「永～Tokoshie」オープン。



◆「古民家交流空間永～Tokoshie」について

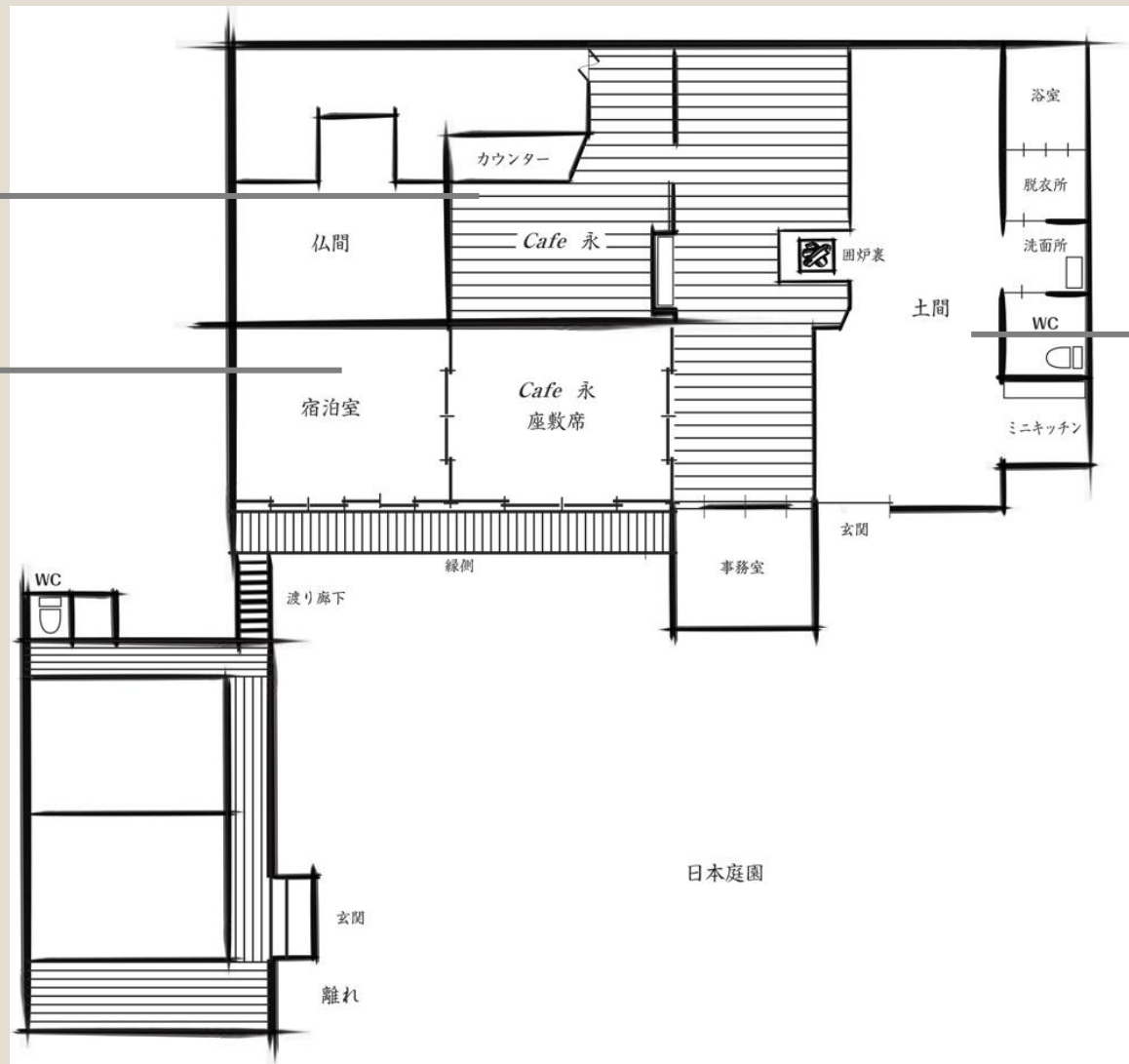
焼石連峰から流れ出る清流胆沢川のほとり、美しい里山風景が残る金ヶ崎永徳寺地区。古来より連綿と人々の営みが続いてきた豊穡の地に建つ築130年余の古民家が、多くの人が集う交流空間として再出発します。これまでさまざまな物語を紡いできた古民家に、いまを生きる私たちのアイデアが加わり、新たな価値が創出されることで、「過去と現在」「ウチとソト」は、縦横無尽に繋がり、未来への無限の可能性を秘めた空間へと生まれ変わります。



◆古民家交流施設「永～Tokoshie」間取図

・地元食材を味わう
古民家カフェ

・泊って楽しむ田舎暮らし
・貸座敷活用で日々の暮らしにワクワクを



・イベントで古民家の良さを体感



合同会社いと・をかし 企業理念と事業概要

【企業理念】

◆縦系(歴史文化)と横系(人のつながり)を紡ぐ

地域で育まれた暮らしの知恵の結晶である歴史文化(縦系)の活用をとおして、現代の地域社会に生きる様々な人のつながり(横系)を創出し、地域の日常に根ざした持続的な文化遺産の活用・保全を図ります。

◆「をかし」があふれる地域社会の実現

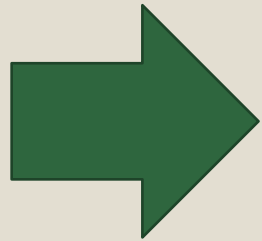
地域に眠る様々な素材を再発見し、その土地ならではの多彩な「をかし」(「楽しい」「美しい」「興味深い」)を育みます。土地に根ざしながらも地域の枠を超え、日々の暮らしを楽しむ中から新たな価値を発信し続ける、そうしたライフスタイルを実現するための様々な事業を展開します。

【事業内容】

- ・古民家を活用した地域交流拠点の運営 ⇒永～TOKOSHIE
- ・まちあるき・各種ガイドツアーの実施
- ・映像・記事制作等による地域の魅力発信業務
- ・古民家等空き家の管理・活用業務
- ・地域の特性を生かしたオリジナルグッズの開発・販売
- ・古民家活用、地域づくり、ライフデザイン等に関する講演、コンサルタント業務
- ・各種イベント・講座の企画・開催



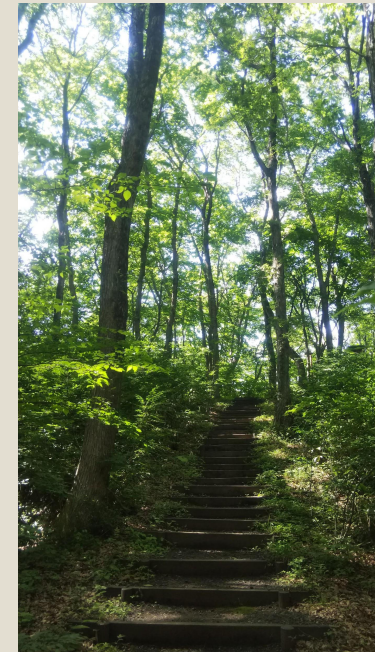
なぜ、金ヶ崎で起業したのか？



ご縁とポテンシャルを感じたから

金ヶ崎のポテンシャル(全体篇)

- ・コンパクトな面積、人口規模で人と人のつながりを感じられる。
⇒大工さんも、農家さんも「知り合いの知り合い」
- ・隣接する奥州、北上を利用することができる。
- ・地元メディアの影響力が強い。広報、胆日、奥州エフエム、そして口コミ。
- ・多様な農作物。美味しく安全な食材。
- ・豊かな自然に囲まれた環境。仕事、子育てに最適。
- ・東北の地理的中心。平泉、花巻へ30分、三陸、秋田へ1時間半。
- ・生涯学習の町。勉強会、各種講座への関心・理解のある方が多い。
- ・観光地として未整備、情報発信不足。
⇒裏を返せば、開拓の余地大
- ・増加する空き家
⇒使える空間がたくさん！
- ・奥深い歴史文化(後述)



「地域」の
物語

金ヶ崎のポテンシャル(歴史文化篇)

- ・古代から近代まで、南の勢力と北の勢力の境界線となっている。(胆沢川、和賀川の存在)
- ・文献としてではなく、伝承として残っている話が多い。(悪路王、白糸姫伝説など)
- ・古い地名が住所表示として残っている。字名約650。(西根古寺、永栄前要害など)
- ・昔の地割や開拓の名残が景観に反映されている。(武家屋敷街、散居村の屋敷林、高谷野原開拓など)
- ・中世山城の遺構が良好に残されている。
- ・郷土芸能が豊富に残されている。(鹿踊り、鬼剣舞、神楽、田植踊り等)
- ・古民家や昔の農具が多く現存している。
- ・文化財指定の歴史的建造物が多く、かつ周辺環境と調和している。



全体として「謎」が多い。そのぶん、様々なストーリーを組み立てることができる。

金ヶ崎の歴史文化活用における課題

- ・歴史文化遺産の管理者、保持者の高齢化と後継者不足。
- ・子どもや若者が「面白い」と思えるような工夫。
- ・圧倒的なPR不足。平泉の陰に隠れている。情報発信方法について。
- ・来訪者への案内(看板、ガイド等)及び満足度を高めるコンテンツ開発。
- ・歴史文化を活用し、稼ぐことによって未来へ残してゆくという発想。



課題をチャンスに変えることで、ふるさとの物語を未来へと紡いでいきたい。

「地域」の
物語

ローカルヒストリーを活用しよう

コンテンツの
発掘

- ・郷土史、史跡、伝承の徹底的調査
- ・発掘したコンテンツの共有(勉強会等)
- ・コンテンツの整理

ストーリーの
再構築

- ・コンテンツ間の関連づけ
- ・ヒストリーをストーリーに
- ・書籍出版、WEB発信

積極的な
活用

- ・演劇、音楽等芸術作品の創作
- ・グッズ販売
- ・イベント
- ・学校教育 等

次世代への
継承

- ・若者、子供の関心喚起
- ・あらたなストーリーの付加、コンテンツの再発掘
- ・小さなストーリーが束となり、うねりとなり、大きなストーリーへと昇華
- ・地域アイデンティティの醸成

歴史は過去に縛られるためではなく、未来をひらき、人生そして地域を豊かにするためにこそ学ぶ価値がある。

「いま、ここ」にいると
いうこと

「懐かしい未来」を紡ぐ～これから金ヶ崎でやっていきたいこと

①ミライナカプロジェクト～空き家を若者のチャレンジの場に！

これから起業したい、自分の店を持ちたいといった思いのある若者が、自己実現に向けてチャレンジできる空間として、空き家を改修・活用していく。同時に、空き家に関心のある人、様々なスキルを持った人のネットワークを構築し、空き家というハードをベースとして、様々な情報が行きかい、新たな価値が創造されていく仕組みを作る。現在、ワンデーシェフキッチンとシェアオフィス、アトリエを兼ねた施設の開業に向け、有志団体「ミライナカ」を立ち上げ模索中。



「いま、ここ」にいると
いうこと

「懐かしい未来」を紡ぐ～これから金ヶ崎でやっていきたいこと

①文化財サテライトオフィス構想

文化財建築をサテライトオフィスとして活用することにより、ワーケーションを望む都市部ベンチャー企業や廉価で事務所を持ちたい地元若手起業家のニーズに対応し、雇用促進と新たな価値創出の場として再生する。非観光地における文化遺産活用のモデルケースとしてエリアブランド化を図る。文化財保全と地域経済活性化の両立。



千田正記念館(三ヶ尻・昭和初期・国登録)



軍馬補充部六原支部官舎群(六原・明治時代・国登録)



ふるさと伝承館(南方・江戸末期)

「いま、ここ」にいると
いうこと

「懐かしい未来」を紡ぐ～これから金ヶ崎でやっていきたいこと

② 柏山明助の生涯を小説化、関連コンテンツの開発

知られざる地元の名将柏山明助の生涯をベースに、中世から近世へという時代の転換期に岩手に生きた人々を描いた小説を出版。関連するグッズやアプリ等を開発し、雇用創出および子どもたちの郷土学習に活用する。



「いま、ここ」にいると
いうこと

「懐かしい未来」を紡ぐ～これから金ヶ崎でやっていきたいこと

③ ディープでマニアックな金ヶ崎ガイドツアー

金ヶ崎の豊穡な歴史文化を、五感をとおして全身で味わえるガイドツアーをパッケージ化。季節限定の景観や達人の技など、「いま、ここ」でしか得られない金ヶ崎体験をビジターに提供。民泊事業との連動により、金ヶ崎リピーターを増やし、交流人口の拡大を図る。



結縁としての地域おこし

～自己・他者・歴史・自然

- ・「自分とは何者か？」を出発点に、「ご縁」によってあらゆる要素を結び付け、ストーリーを構築することで、自分に対しても、地域に対しても肯定感を高めることができる。
- ・多くの人のストーリーが重層的に交織されることで、地域社会という布地に、色彩豊かな曼荼羅文様が描かれる。
- ・過去を大切にし、未来に希望を抱き、「今、この瞬間」を最大限に楽しむ人が増えれば、地域社会はふたたび輝きを取り戻す。

地域おこしは縁結び！

ご清聴ありがとうございました！

